（様式 2）

令和6年度佐賀大学戦略的PSプロジェクト報告書

令和　７年　　３月　３１日

国際交流推進センター長　殿

申　請　者（代表申請者）
部　局　名　農学部
職　　名　教授
氏　　名　鈴木章弘

下記のとおり報告します。

1．大学間交流協定校（国・地域）	中国農業大学（中国）		
2．種別	A国際共同研究型		
3．実施代表者	徳田　誠	4．所属・職名	農学部・教授
5．連携部局	該当なし		
6．国際共同（教育）研究課題	研究テーマ：東アジアを取り巻く農学関連課題の解決に向けた日中共同研究推進～特に長距離飛来昆虫を含む病害虫対策を中心に～ 詳細：日本と中国の農業は、水稲をはじめとする主要農産物や栽培体系、重要病害虫、営農規模など類似点が多く、さまざまな側面で共通の課題を抱えている。とりわけ昆虫学分野では、中国大陸からの長距離飛来昆虫が九州において重要害虫となっているなど、日中間の連携した取り組みが必要不可欠になっている。 　中国農業大学は中国を代表する農学系大学であり、農業系分野においては世界第9位*の大学である。同大学の植物保護学院には、昆虫学を中心として中国屈指の陣容が整った研究機関である。一方、佐賀大学も以前から昆虫学関連の研究が非常に活発に展開されており、外部資金の獲得や論文発表、学生の受賞など、学内でも顕著な実績をあげてきた。また同大学の研究者は、常に世界トップレベルの研究者同士で連携して国際的な研究を展開しており、世界最先端の知とつながっている環境にある。 　本事業は、海外大学と互いの強みを生かした新たな研究教育交流基盤構築を目的としており、かつ農業県佐賀としても長距離飛来する害虫への対策は喫緊の課題であり、その最も大きな飛来源である中国との研究は非常に有意義である。一方で、中国にとっても、移出した害虫がどの		

	ように分散するかを把握し、かつその影響度合いを分析することは国際的意義が高い。以上の背景を踏まえ、令和5年度の学術交流協定更新の機会を活かして、コロナ禍前から停滞していた学術交流を再活性化する機会のみならず、互いの強みを活かし、弱みを補完しながら両大学の国際共同研究を促進させることが可能である。両国で共通する課題に関して、戦略的に国際共同研究に取り組むことは本学と中国農業大学の双方にとって利益が大であるのに加え、農学関係の地球規模の課題に対して両大学が協力し、解決に向けた具体的な貢献できる分野であるといえる。したがって、これらの国際共同の取り組みは、日中両国を取り巻く東アジア地域のみならず、国際社会へ与える影響は小さくない。 *QS世界大学ランキング2024年より参照
7. 令和6年度の実施内容	令和６年８月25日～30日にかけて開催された国際昆虫学会議（ICEKyoto2024）の機会を利用し、来日した中国農業大学の劉星月博士（学系長）らと対面で研究打ち合わせを実施し、病害虫関連分野を核とした農学分野における共同研究の活性化をはかった。 前年度の検討結果を踏まえ、日華系昆虫の系統分類学的研究を遂行するための外部の競争的資金の獲得を視野に入れたオンライン会議を実施し、JSPS二国間交流事業に応募した。 令和６年10月10日～12日に北京平谷区で開催された2024 World AgriFood Innovation Conference（WAFI2024）に大島一里副学長（企画・将来計画担当理事；兒玉学長代理）が渡航される機会に合わせ、鈴木章弘農学部長、実施代表者の徳田、カミスイルサイド・アイマン助教および博士課程大学院生１名（矢野文士）が参加し、中国農業大学の杜太生副学長（国際担当）と面会して今後の交流の活発化に関して意見交換した。徳田・カミスイルサイド・矢野は、会議の後で中国農業大学も訪問し、植物保護学院の李軒昆博士ら共同研究者と今後の研究の進め方について具体的に議論した。 その後、オンラインおよびメール会議により、令和７年度中の論文投稿に向けたデータ解析について議論を重ねた。
8.参加者数 ※参加者名簿も併せてご記入ください	参加者数　　4　名 内、教員・研究者数　3名、学生数　1名

9. 事業を通じて得られた成果及び今後の計画 ※事業実施の様子について、写真を3枚程度提供ください	【成果】 ・国際昆虫学会議（ICE2024Kyoto）の機会に中国農業大学の劉星月博士（学系長）らと面会し、共同研究の進め方について議論した。 ・WAFI2024において大島理事・鈴木農学部長と共に中国農業大学の杜副学長と面会し、両大学の国際交流の一層の発展について議論した。 ・中国農業大学植物保護学院において李軒昆博士らと今後の研究の進め方や論文化の方針などについて議論した。

・令和7年度の論文投稿を見据え、オンラインでデータ解析や論文化の方針について議論した。

【令和7年度】

病害虫関連分野など、国際共同研究の推進が見込まれる研究分野を対象として、二国間事業などの外部の競争的資金を活用した国際共同研究を推進すると共に、国際学術誌に研究成果を1編以上投稿する。将来的な人的交流の活発化を見据え、教員同士の共同研究を活性化する議論や、両大学の昆虫関連分野の学生による研究紹介のためのオンラインセミナーを複数回開催する。

また、中国農業大学にとって佐賀大学を海外交流拠点校として位置付けてもらい、相手大学教員を佐賀大学の客員教授として位置付け、かつ佐賀大学との共同研究成果を中国農業大学の昆虫学展示ルームに展示してもらう交渉を始める。

【令和8度以降】

将来的な人的交流の活発化を見据え、両大学間でのオンライン交流を教員同士の共同研究を活性化するための議論の場や両大学の昆虫関連分野の学生による研究紹介の場としてのオンラインセミナーを定例化する。

また、将来的に戦略的PSに基づく継続的な共同研究事業を発展させることを見据え、この年度以降は、毎年度複数編の論文が投稿でき、両

	大学の強みを活かしたインパクトのある研究成果（ハイインパクトな学術論文）を継続的に発表できる体制を構築する。 中国農業大学にとって佐賀大学を海外交流拠点校としての位置付けを実現させ、かつ、相手大学教員を佐賀大学の客員教授として位置付けることを目指す。また、展示の実現に向けた研究成果づくりを進める。
10. 支出額	金　額　　1,500,000　円 （内訳） 謝金　　2,100円 （具体的に：　データ解析補助者謝金　　） 旅費　　666,771円 （海外渡航費20万円×研究者3名;ほか旅行保険、WIFIレンタルなど） 消耗品費　　338,659円 （具体的な使用用途：共同研究推進にかかる実験用消耗品） 雑役務費　　492,470円 （具体的な使用用途：共同研究推進にかかるデータ解析［シーケンス外注など］）
11. 他の外部資金等への　申請状況	令和7年度JSPS二国間交流事業（不採択B）
12. 実施者アンケート	
本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：5（非常に良い） 支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：5（非常に適切であった） 次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する そのほかコメント：	

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。(Word 貼付けとは別に)